佳作

愛犬のベル

神奈川県　湘南白百合学園小学校三年　橘　由芽果

わたしの家にはベルという女の子の犬がいます。ベルはトイプードルで二〇二二年十二月にうちに来ました。わたしは、ずっと前から犬をかってみたいと思っていました。なぜかというと、いとこがかっていたり、おさんぽしている犬をたくさん見ていたからです。でも、お父さんとお母さんが、

「生き物をかうことは大へんなんだよ。」

とかんたんにはいいよ、と言ってはくれませんでした。

でもある日、お父さんとお母さんが、

「きちんと世話をするなら犬をかってもいいよ。」

と言ってくれました。そして、ベルが家ぞくになりました。でも、子犬のベルはそこらじゅうおしっこをしてしまったり、ティッシュやゴムを口に入れてしまったり、犬をかうことはやっぱり大へんなんだな、と思いました。ベルはわたしがねる時間になると、わたしと同じふとんにきていっしょにねるのがとてもかわいいです。ベルはおさんぽに行くのとおもちゃで遊ぶことが大好きです。

ベルをかってから、犬についての本をたくさん読むようになりました。そして、この前わたしは『ぼくのワンダフルライフ』という映画を見ました。犬が同じ記おくを持って何回も生まれ変わるお話です。わたしとベルもいつかおわかれする日が来てしまうのかな、とそうぞうしたらいつのまにかなみだが出てきました。となりで見ていた妹もわたしと同じようにないていました。

わたしにはゆめがあります。それは、しょう来じゅういになることです。犬は言葉が話せないので具合が悪くても言いたいことが言えません。だから、病気を治したり、犬の気持ちが少しでも分かるように、たくさんべん強してじゅういになりたいと思いました。犬は一年に三才ぐらい年をとるそうです。わたしが二十才くらいになったときにはベルは人間でいうと六十才くらいになっています。ベルがもし病気になった時にはわたしがじゅういになって助けたいです。

ベルとの一日一日の時間を大切にして、わたしが大人になってもずっといっしょにいたいです。